

除染後農地における土壌肥沃度のばらつきの現状

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 福島イノベ構想に基づく農業先端技術展開事業

小事業名 農林業イノベーションロボット開発事業

研究課題名 「見える化」技術を活用した土壌肥沃度のばらつき改善技術の開発
〔農林水産分野の先端技術展開事業のうち研究開発（JPJ009997）〕

担当者 平山孝、渡辺明、吉田雅貴、浅枝諭史、齋藤隆

I 新技術の解説

1 要旨

放射線量の高かった避難指示区域等では、表土剥ぎ+客土による農地除染が行われ、土壌肥沃度の低下とばらつきが懸念されている。そこで、複数の地域のほ場から土壌を採取し、土壌肥沃度の指標となる土壌炭素含有率を測定した結果、大きなばらつきがあるが、その程度は地域やほ場によって一様ではないことが明らかになった。

(1) 4地域（5ほ場）の除染後農地において任意の20~50点を採取し、調査した結果、土壌炭素含有率に大きなばらつきが見られ、いずれのほ場でも県の土壌改良目標値（約1.2%）に満たない地点が局在していた（図1）。

2 期待される効果

(1) 除染後農地において農作物の安定生産を図るうえでの基礎資料となる。

3 活用上の留意点

(1) 土壌炭素含有率を高めるには堆肥や緑肥による土づくりが効果的であるが、土壌肥沃度の改善には比較的長時間を要する。

(2) A町は飼料作物の作付後、B町は水稻収穫後、C町とD町は保全管理中（未作付）のほ場を調査した。

II 具体的データ等

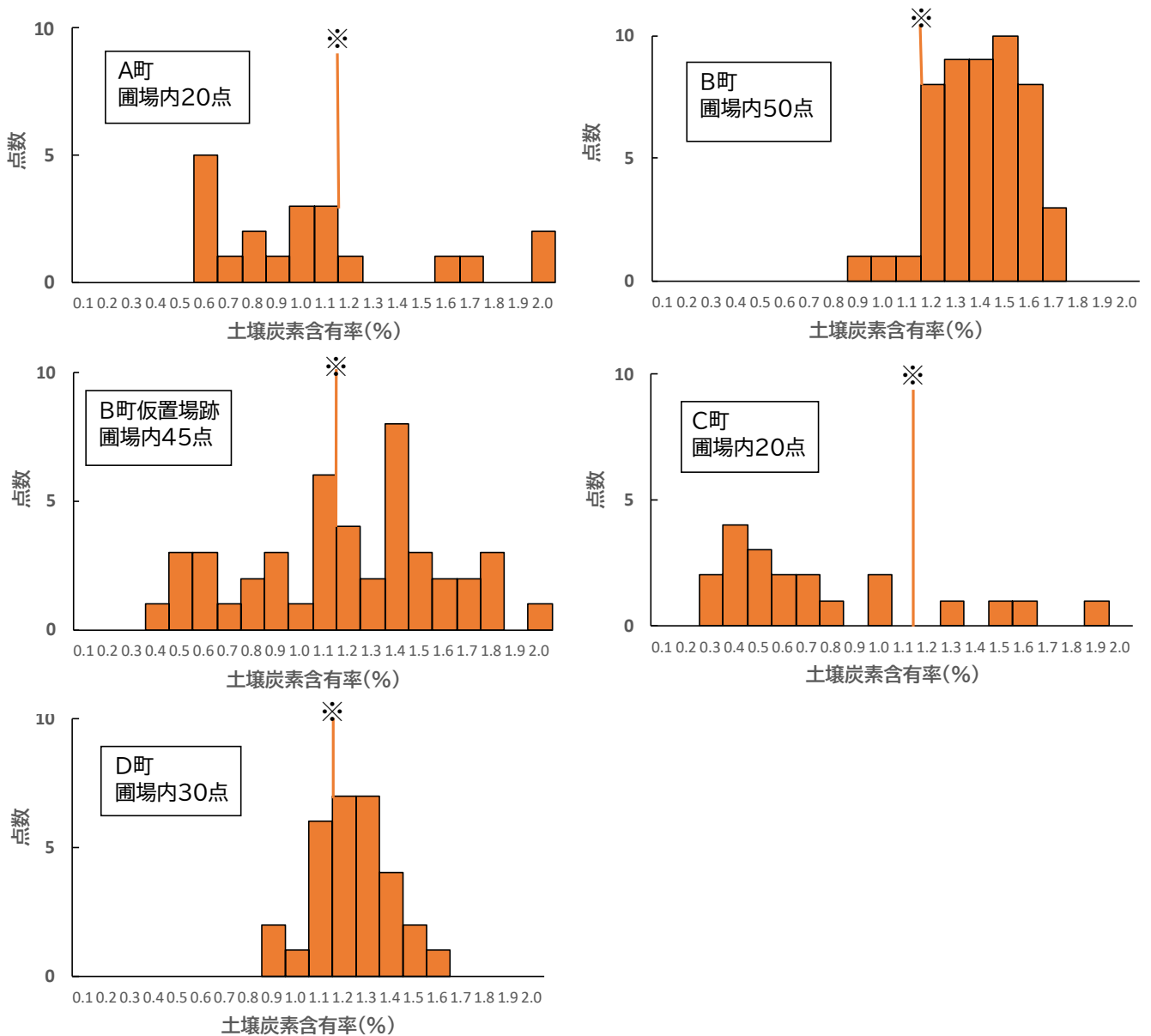


図1 4地域（5ほ場）の除染後農地における土壤炭素含有率の分布実態（2023年）

注 縦線（※）は福島県における土壤改良目標値（腐植2%≒炭素含有率1.2%）

III その他

1 執筆者

平山孝

2 実施期間

令和3～5年度

3 主な参考文献・資料

(1) 福島県施肥基準（平成31年3月改訂）土壤肥料技術指針

(2) 令和4年度営農再開実証技術情報「除染後農地における土壤の腐植含量と可給態窒素含量の実態（双葉町）」